

第5学年 道徳学習指導案

平成27年6月24日（水）第5校時

- 1 主題名 友情の絆を深めていこう 内容項目2-（3）
資料名 「友達だから」（出典 「夢にむかって」 彩の国の道徳）

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

高学年における内容項目2-（3）は、「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」ことをねらいとしている。この項目は、低学年の「友達と仲よくし、助け合う。」、中学年の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」ことから、さらに友達を意識し、仲のよい友達との絆を深めていくことで、健全な友達関係を育てていくことが大切である。

この時期、友達との関わりは、趣味や嗜好を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も生まれてくる。「友達は大事」と思いながらも、疎外感を感じたり、友達との間で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになる。また、男女間でのとらえ方の違いも生まれてくる。真の友情とは、自分の損得を抜きにし、相手を理解し、受け入れ、切磋琢磨しながら学び合い、助け合う中で生まれてくるものである。そして、男女関係なく、互いの人格の尊重を基盤として、広い視野を持ち信頼関係を築いていくことである。

（2）児童の実態について

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。高学年になり、委員会活動にも積極的に参加し意欲的である。また、学級における係や当番の仕事も責任を持って行っている。4月末で転校することになった友達のお別れ会では、短期間の中でお別れ会を計画し準備を進めることができた。その際にも、転校する友達を思い、喜んでもらえる会にしようと、係を中心にプログラムの内容を一生懸命考える姿や、手紙やメッセージを作成する姿がたくさん見られた。学級目標やクラスのマークを決める際には、「どんなときも助け合って仲よくできるクラス」にしようと、みんなで意見を出し合い、目標やマークを決めることができた。また、休み時間には、クラスみんなで外遊びを楽しむこともできる。しかし、その遊びの中で、ルールを守らなかつたり、自分本位な考えで勝手な行動をとったりする児童も見られる。

本主題を設定するに当たって児童に実施したアンケートは、以下の通りである。

＜調査日 平成27年5月1日＞

- Q1 友達がいてよかったと思ったことはありますか。
はい（96%） いいえ（4%）
- Q2 「はい」と答えた人に聞きます。それはどんなことですか。（複数回答）
・困っているときに、相談にのってくれた。声をかけてくれた。助けてくれた。（30%）
・一緒に話をしたり、遊んだりできる。（44%）
・失敗を励ましてくれた。（4%）
・けがをしたときに、心配してくれた。「大丈夫。」と声をかけてくれた。（19%）
・一緒にいてやさしい気持ちになれる。（4%）
・やさしい言葉をかけてくれる。（8%）
- Q3 困っている友達に声をかけますか。
はい（59%） 時々（37%） いいえ（4%）
- Q4 友達が自分勝手な行動をしていたら、どうしますか。
注意する（67%） 誰かに相談する（30%） 何もしない（3%）
その他（0%）

Q 5 自分の考えと友達の考えが違うときに、友達の考えを認めることができますか。
 できる (41%) できない時もある (59%) できない (0%)

アンケート調査の結果から、友達がいてよかったと思える児童がほとんどであった。自分にとっての友達は、自分が困っているときに助けてくれたり、相談に乗ってくれたりする存在であり、大切にしていきたいと思っている。しかし、自分勝手な行動をとる友達に対して、注意できる児童もいるが、時と場によってはできないという児童も見られる。できないときもあるという児童の中には、自分が悪い立場に立つことを恐れたり、仲間はずれにされたりすることを嫌がる傾向にある。

そこで、本資料を通して、学習や活動を心から楽しむということは、自分が好きなことだけを楽しむのではなく、多様な考えを認め、互いに助け合い困難に立ち向かっていくことが大切であることに気付かせたい。そして、「自分も友達もいてよかった。」と思える学級集団を築いていきたい。

(3)資料について

5年生になって組替えがあり、さつきの新しいクラスは、みんな高学年になった喜びに輝いていた。5年生は5月の自然教室に向けて、「学級交流会」を開くことになり、さつきたち1組では、劇をやろうという話が出た。劇の練習が始まり、みんなはりきって練習する中、みゆきが家の用事があるというので、途中で帰ってしまう。そして、その日からときどき練習を休むようになった。そんな中、やる気にあふれたメンバーからは、みゆきに対して批判の声があがるようになり、さつきも仲よしだったみゆきに対して、なんとなく不満な気持ちを感じ始める。2日後、さつきはみゆきの家へ行き、練習に参加できないわけを知る。翌日、さつきは学校で劇のグループの人たちに、みゆき家の事情を話す。陽子や和美からは、「みゆきのため、クラスのため・みんなが困るわ。」と言われ、さつきの気持ちは大きく揺れ動く。「みんなで話し合っただめたの・・・。」というさつきの言葉に何か言いたそうにしていたみゆき。数日後、劇のリハーサルをしているところにみゆきがやってきて「何かできることはない？」というが、陽子や和美からは、冷たい言葉が返ってくる。その言葉を聞いたさつきは「絵を支える人が足りないんだ。みゆきさんがやってくれれば助かる。」と声をかける。そして、冷たい言葉を返した二人に向かってさつきは、こう言う。「交流会の目的は、こうすることだよ。本当の友達だから。」と。

「みゆきのため、家のため、クラスのため」という陽子や和美のような考え方は、高学年なるにつれて芽生えてくる感情である。しかし、そこには自分本位な考えであり、相手の立場や思いを受け止めた考えではないことが往々にしてある。そこで、お互いの立場を考え、友達同士助け合っってよりよい方向へと伸びていくことの大切さを考えさせていきたい。

3 本時のねらい

お互いに理解し、信頼し合い、向上していくことができる友情関係を築こうとする態度を育てる。

4 他の教育活動との関連

事前指導	道徳の時間	事後指導
(日常の仕事) 「当番・係活動」 「委員会活動」 一人一人が責任をもって自分の役割を果たすこと。クラスがもっとよくなることをめあてとし、仲間と協力	(5月) 〈資料名〉 「きくさんのなみだ」 思いやりをもち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。	(6月 話し合い活動) 「林間学校の係を決めよう」 林間学校を成功させるために、自分にできること、仲間と協力して準備を進めていくことの大切さを通して、意識を高めさせる。

してたり創意工夫したりして取り組む。

(4月 学級活動)
 「学級目標を決めよう」
 「クラスのマークを決めよう」
 「クラスの旗を作ろう」
 「5年2組の3か条を決めよう」

学級の一員としての意識を高め、仲間を大切にしようとする態度を育てる。

(4月 学級活動)
 「お別れ会をしよう」
 友達に喜んでもらえる会になるよう、協力して行う。

(5月 学校行事)
 「運動会」
 組体操や係の仕事を、仲間と力を合わせ、行うことよさを実感させる。

(7月 学校行事)

「林間学校」

様々な活動を通して、仲間の大切さや信頼関係を築き、絆を深める。

家庭との連携

- ・学級通信の中で、様々な活動の様子を伝えるとともに、友達との関わり方や児童一人一人の思いや願いを伝え、家庭の中でも話題にしてもらうようにする。
- ・家庭の中でも、友達との関係について話を聞いたり、父母の友達に対する考えや思いを経験を基に話してもらったりするようお願いする。

5 学習指導過程

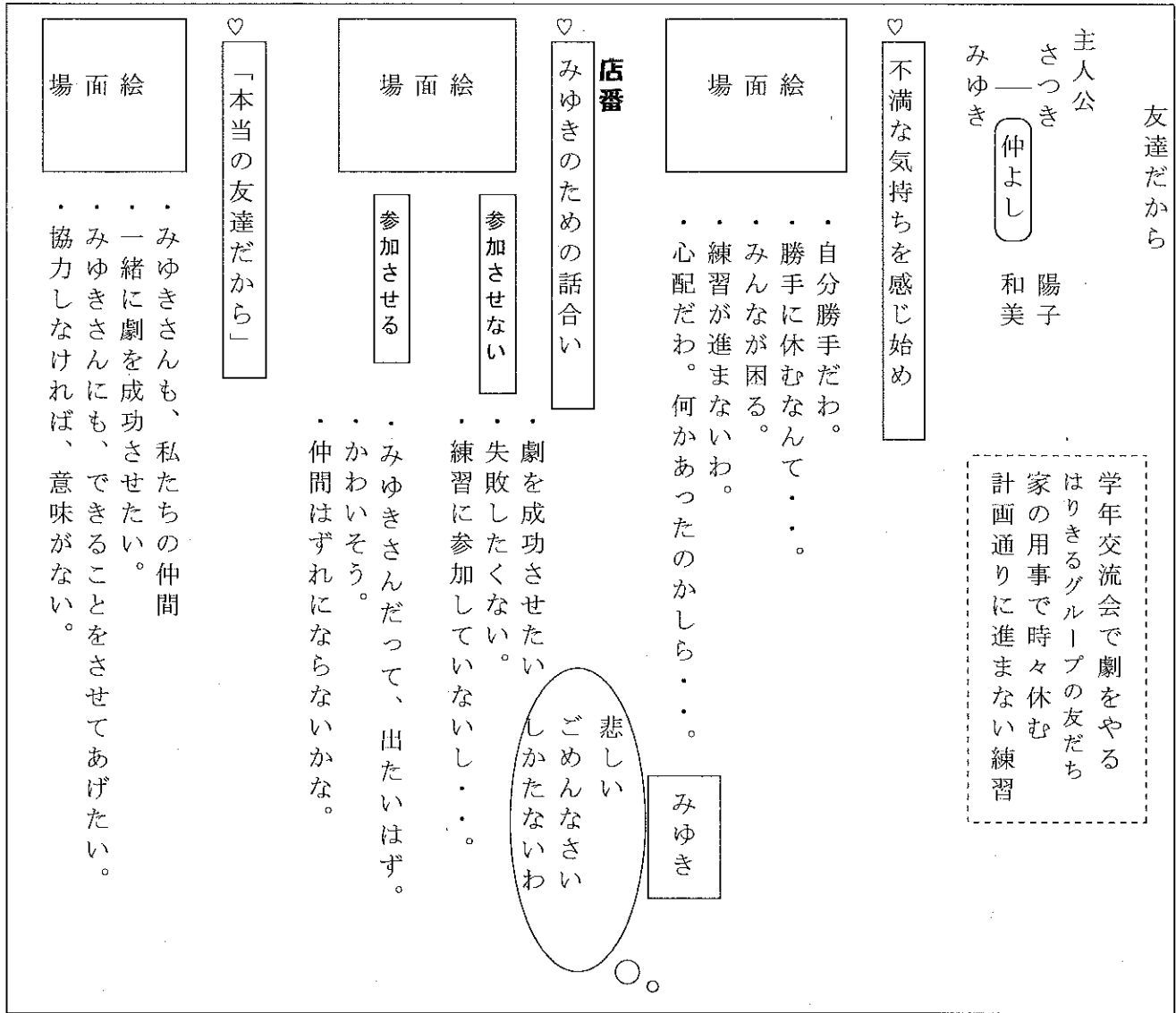
段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ◇評価(評価方法)	時間
導入	1 アンケートの結果について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に話したり、遊んだりする。 ・相談にのってくれる。 ・困ったときに、助けてくれる。 ・励ましてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にとったアンケートから、本当の友達について考えることを知らせる。 	2分
展開	2 資料の紹介 登場人物や条件・状況を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や条件・状況を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを用いて、人物や条件、状況をおさえる。 ・さつきをはじめ、クラスの友だちみんなが、高学年になった喜びや新しいクラスに期待をもっていることをおさえる。 	3分
閉	<p>【登場人物】</p> <p>主人公：さつき 友だち：みゆき(相方) 陽子 和美</p> <p>条件・状況</p> <p>5年生になって組替えをする。学年交流会で劇をやる。みんなはりきって練習するが、みゆきは、家の用事で途中で帰ってしまう。その日から練習を時々休む。劇の仲間から不平や不満が起こる。</p>			

展 開	深 め る	3 資料の範読	<ul style="list-style-type: none"> ・ さつきの気持ちを考えながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードとなる言葉を丁寧に読む。 	5分
		4 主人公「さつき」の気持ちを中心に話し合う。 (1) 陽子や和美の話を聞き、仲よしだったみゆきに不満を持ち始めたさつきはどんな気持ちだったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勝手に練習を休むなんて困る。 ・ 全員が揃わないと劇の練習が進まないわ。 ・ もっとみんなのことも考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲よしだったみゆきに不満を持ち始めたさつきの気持ちに十分共感させる。 ◇みゆきに不満を持つさつきの気持ちに共感することができたか。 <p style="text-align: center;">【発表・観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 劇を成功させたい陽子や和美の考えとみゆきの気持ちを考えるさつきの心の葛藤をとらえじっくり話し合わせる。 ・ 一人一人に考えをもたせるためにペアやグループによる話合いの時間を確保する。さつきの複雑な思いを浮き彫りにしていく。 ・ さつきの言葉に、何か言いたそうしていたみゆきの気持ちも考えるようにさせる。 ・ さつきの心の葛藤を色円盤を使って表現させる。 ◇さつきの複雑な思いについて、深く考えることができたか。 <p style="text-align: center;">【発表・観察】</p>	5分
		(2) みゆきのために話し合っている陽子や和美たちの意見を聞いているさつきはどんな気持ちでいるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一生懸命がんばっているみんなのことを考えると、みゆきさんには抜けてもらう方がいいのかもしれない。 ・ 本当にみゆきさん抜きでいいのかしら。 ・ 本当はみゆきさんだっけ練習に参加したいに決まっている。 ・ みゆきさんを仲間はずれにしているようで、いやだな。 ・ 「ごめんなさい。」みゆきさん。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 劇を成功させたい陽子や和美の考えとみゆきの気持ちを考えるさつきの心の葛藤をとらえじっくり話し合わせる。 ・ 一人一人に考えをもたせるためにペアやグループによる話合いの時間を確保する。さつきの複雑な思いを浮き彫りにしていく。 ・ さつきの言葉に、何か言いたそうしていたみゆきの気持ちも考えるようにさせる。 ・ さつきの心の葛藤を色円盤を使って表現させる。 ◇さつきの複雑な思いについて、深く考えることができたか。 <p style="text-align: center;">【発表・観察】</p>	10分
	(3) 「本当の友達だから」の言葉には、さつきのどんな思いが込められているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ みゆきさんも私たちの仲間だから。 ・ みんなで協力してこの劇を成功させることが大切だ。 ・ みゆきさんにだってできることはある。一緒にがんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「本当の友達・・・」に込められた友達への思いと勇気から、真の友情について考えを深めていく。 ◇真の友情について、深く考えることができたか。 【発表・観察】 	7分	
見 つ め る	5 今日の学習をふり返る。 ・ これまでの友達との関係をふり返る。 ・ 「本当の友達」でいるために大切なことは何だろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手のことを考えて行動することが大切なんだな。 ・ みんなで助け合って、生活していくことが大事だと思う。 ・ 仲がよいのも友達だけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本資料から、考えたことや感じたことを素直な気持ちでシートに書かせる。 ◇これまでの自分とこれからの自分を見つめ、真の友達について考え 	10分	

			ど、本当の友達は、何でも言えて、わかり合える関係だと思う。	を深めることができたか。 【カード・発表】	
終 末	あ た た め る	6 教師の説話を聴く。		・ねらいに関わる教師の説話をし、価値を印象づける。	3 分

6 評価の観点

- ・さつきの親友として自分の在り方に気付いていく心情について、深く考えることができたか。【発表・観察】
- ・これまでの友達との関係を振り返ったり、これからの友達との関係を考えたりすることができたか。【カード・発表】



8 資料分析表

① 資料名「友達だから」(出典 「夢にむかって」 彩の国の道徳)

② 条件・状況

主人公：さつき
 友だち：みゆき（相方） 陽子 和美
 条件・状況： 5年生になって組替え 学年交流会で劇をやる。
 みんなはりきって練習するが、みゆきは、家の用事で途中で帰ってしまう。
 その日から練習を時々休む。
 劇の仲間から不平や不満が起こる。

③ 支援の流れ

[話題につなげたい場面]

・交流会の練習が始まり、はりきって練習をする中、みゆきが途中で帰ってしまう。その日から、時々練習を休むようになった。



[キーワード・主人公の心情]

・「こんなことではまともまらない。」
 ・「こまったわね・・・チームワークが悪くなるわ。」
 ・和美の言葉はまったくその通りでした。



[考えさせたい心の内]

・陽子や和美の話聞き、仲よしだったみゆきに不満を持ち始めたさつきはどんな気持ちだったか。

・練習に参加できないわけを聞きに、みゆきの家へ出かけて行く。みゆきの家をグルーの人たちに話し、みゆきの立場になって考えた。



・「仲間はずれにしてしまうようで気がひけるな・・・」
・「みんなで話し合っ
て決めたの。」



・みゆきのために話し合っている陽子や和美たちの意見を聞いているさつきはどんな気持ちでいるか。

・何か手伝いたいというみゆきに、陽子、和美は、「何を今さら・・・」と言葉を返す。一瞬静まり返った中、さつきがみゆきに手伝いを頼む。



・「みゆきさんがやってくれるとちょうど助かるな。」
・「交流会の目的は、こうすることだよね。」



・「本当の友達だから」の言葉には、さつきのどんな思いが込められているのか。